



ヴェーダ

V E D A

ヴェーダとは
サンスクリット語で
“癒し”を意味します。

地域の皆さん向けの広報誌

基本理念

わたしたちは地域の中核病院として皆さんの健康を守るために、質の高い医療を提供し共に歩みます。

基本方針

- 患者さんの人権と権利の尊重
- がん医療、救急医療、生活習慣病を中心とした医療の推進
- 地域の医療保健機関、介護福祉施設との連携強化並びに、地域完結型医療の確立
- 職員の働きやすい職場づくり

地域中核病院として 皆さんと共に歩みます

国民健康保険 小松市民病院
院長 村上 眞也



この度小松市民病院院長を拝命した村上です。

当院は南加賀医療圏における急性期医療の中核病院であり、災害対策の拠点病院、研修医の教育病院など様々な機能を担っています。診療の柱はがん医療、救急医療、生活習慣病です。また小児医療、合併疾患を有する妊婦に対する産科医療、急性期精神医療にも重点を置いています。

がん医療に関しては、厚労省が指定するがん診療連携拠点病院として、地域に高度ながん治療を提供し、県内では数少ない緩和ケア病棟も備えています。また、在宅療養・治療への助力や患者さんの就労支援などを行うがん相談支援センター、患者さん同士の交流を育むサロン「Katara-sa」を設け、がん患者さんに対し、治療だけでなく、生活の質も守るための多角的サポートに努めています。

救急医療に関しては、2012年に南加賀救急医療センターを、2015年にはハイケアユニットを開設し、緊急を要する重症患者さんの受け入れを充実させました。一方、敷地内には小松市医師会が運営する南加賀急病センターもあり、こちらは休日や夜間の一次救急に対応しており、地域の皆さんに安心していただける医療体制を整えています。

生活習慣病に関しては、2014年生活習慣病センターを開設しました。主に糖尿病患者さんに対し、食事などの生活改善、治療、合併症対策などを指導するため、医師や看護師、栄養士など専門科によるチームがサポートしています。また小松市は「予防先進都市」をめざしており、高血圧、虚血性心疾患、慢性腎臓病対策や認知症早期診断により予防先進都市の実現に努めます。

職員が少しでも働きやすい環境を作る努力も欠かせません。職員が充実感を持って働くことで、患者さんの満足度が増し、病院の評価にも繋がります。資格取得のための全面的な経済支援、頑張っている職員を表彰する制度、メディカルクラークや看護補助者の増員を図り、医師、看護師の業務負担軽減に努めています。また看護部ではワークライフバランスを取り入れ準夜勤務・夜間勤務の短縮に努めています。

これからも、地域の中核病院として皆さんの健康を守るために、質の高い医療を提供し共に歩む所存です。

看護部長紹介



(中田晴美 豊谷由美子)
太田裕子

国民健康保険 小松市民病院
看護部長 太田 裕子

皆様、こんにちは。小松市民病院看護部の管理部門に所属している太田裕子と申します。

私は富山県生まれですが、小松での生活が人生の半分以上となり、今は小松人になりきっています。富山弁を発することもなくなりました。そして、ここまで、長く勤めることができています。先輩方々、同僚、事務管理を含めたコメディカルの皆様のおかげとっております。また何よりも私が若輩時代に支えられたのは患者さんとの信頼関係です。

今年度、看護部管理部門は、看護部長1名(私、太田裕子)・看護副部長2名(豊谷由美子・中田晴美)と新たに活動を開始しております。

大切な患者さんとの信頼関係を充実させていくことを基本として、臨床的な技術のみならず、患者さんに寄り添うという最も大切なスキルをこれからもより充実できる看護部になるよう私達3名そして、看護師長をはじめ、全看護師・看護補助者、力を合わせて、看護提供体制を築いていきたいと思っております。

また、今年度村上院長の方針の1つとして、急性期病院としての役割を果たしていくことが掲げられました。

急性期病院で、気をつけていかなければならない事は、入院日数が短いこと、社会全体の高齢化に伴い高齢患者さんが増加すること、家族形態が変化してきていること等があげられます。具体的には、認知症の痛みと対応能力、意思決定、家族とのコミュニケーション、ユマニチュード等ケアの技術、老年症候群、超高齢者の手術のリスクにしっかりと目を向けていかなければなりません。そして1番重要なことは、地域とのつながりです。

患者さんの生活を重要視し、医療を施さなくては行けません。あくまでも地域で暮らす患者さんであることを見据え、近隣の様々な医療、介護の方々や施設と顔の見える連携をめざして取り組んでいきます。

皆様とともに歩んでいきたいと思っておりますので、これからも宜しくお願いします。



新任医師

新任医師の紹介

- 1 専門分野及び得意な疾患・治療
- 2 資格(認定・指導医・専門医)
- 3 今後の抱負
- 4 趣味・その他

後藤 善則

- 1 消化器内科
- 2 日本内科学会 総合内科専門医
日本消化器病学会 認定消化器病専門医
日本肝臓学会 認定肝臓専門医
日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医

高橋 直樹

- 1 消化器、肝胆膵(内科) 固形癌(消化器系、その他一般)
- 2 日本内科学会 認定内科医
日本消化器病学会 認定消化器病専門医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
- 3 消化器領域の患者さんに最善の治療を提供することに努めます。
- 4 旅行・スポーツ観戦など

米田 太郎

- 1 呼吸器内科(肺癌)
- 2 日本内科学会 総合内科専門医
日本内科学会 認定内科医
日本呼吸器学会 呼吸器専門医
日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 3 地域の皆様のお役にたてます様がんばります。

末松 哲郎

- 1 循環器
- 3 人に優しい医療を心掛けています。

山口 陽平

- 1 精神科
- 2 精神保健指定医
日本精神神経学会 精神科専門医・指導医
- 3 他科との連携含め少しでもお役に立てればと思っております。
- 4 音楽 読書

竹本 法弘

- 1 消化器外科 ヘルニア 一般外科
- 2 日本外科学会 外科専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 3 宜しく願ひ致します
- 4 ダイビング(ご無沙汰していますが…)

田中 伸佳

- 1 呼吸器外科専門 肺癌、縦隔腫瘍、気胸など
- 2 日本外科学会 外科専門医
呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 3 呼吸器疾患の手術を中心に、皆様のお役に立てるよう一杯がんばります。
- 4 読書

金田 尚

- 1 小児科一般 小児腎臓・泌尿器疾患 小児リウマチ・膠原病
- 2 日本小児科学会 小児科専門医・指導医
日本腎臓学会 腎臓専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター(ICD)
- 3 溫和勤勉に勤めます
- 4 ジョギング、読書

多賀 正

- 1 整形外科一般 関節外科
- 2 日本整形外科学会 整形外科専門医
日本整形外科学会リウマチ認定医
- 3 少しでもわかりやすく説明させてもらえるように心掛けます。
- 4 マラソンをはじめました。

曾川 亜紀子

- 1 形成外科一般
- 3 一人ひとり、患者さんをしっかり診察したいです。
- 4 海外ドラマ・旅行

村松 直樹

- 1 脳神経外科
- 2 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医
- 3 小松市を中心とした南加賀地区の地域医療に少しでも貢献できるようにがんばります。
- 4 登山・写真

吉田 優也

- 1 脳神経外科一般 脳血管障害
- 2 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医
日本脳卒中学会 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医
- 3 小松市民病院のお役に立てるようがんばります。
- 4 音楽鑑賞・旅行

氏野 由理

- 1 皮膚科一般
- 3 丁寧に正確な診察を心がけていきます。
- 4 絵

中島 正志

- 1 音声障害 嚥下障害
- 2 日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専門医
補聴器相談医
- 3 「信念があれば絶望の山を切り開いて希望の石を切り出すことができる」
- 4 釣りなどアウトドア マンガを読むこと

南部 優介

- 1 麻酔全般
- 2 日本麻酔科学会 麻酔科認定医
- 3 手術の痛みだけでなく手術・麻酔に対する不安な思いも取り除けるよう、心を込めて麻酔を担当します。
- 4 音楽

善田 貴裕

- 1 内科一般診療(消化器)
- 2 日本内科学会 認定内科医
日本消化器病学会 認定消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医・指導医
日本肝臓学会 認定肝臓専門医
日本医師会認定産業医
- 3 検診結果がきちんと疾病予防につながる様に臨床現場へまでの橋渡しをこころがけた指導を行いたいと思っています。
- 4 山登り(現在45/100名山)

H.28
3/10thu.

第14回 緩和医療懇話会開催



「がん患者さんが在宅で安心して生活できるために」をテーマに第14回緩和医療懇話会が開催されました。

平成28年3月10日(木)午後7時よりホテルサンルート小松において、医師、看護師、訪問看護師、薬剤師、介護士、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー、保健師、理学療法士の方々約80名の参加がありました。講師は当院呼吸器内科医長 緩和ケアチーム担当 松沼医師が在宅緩和医療について講演をおこないました。

内容は1.南加賀地区の在宅医療の現状(医療機関へのアンケート結果)、2.予後予測について、3.患者さんが自宅で安心して生活できるために(緩和ケア地域連携パスと今後の課題)でした。事前におこなった医療機関へのアンケート結果より、末期がん患者の予後予測の判定方法の紹介がありました。在宅療養継続のための緩和ケア地域連携パスについての説明がありました。在宅看取り率に影響を与えた因子として、在宅医・訪問看護師の緩和ケア継続教育プログラム研修受講が報告されており、当院でも毎年研修を開催していることが紹介されました。講演後に会場の皆様と意見交換会をおこないました。

訪問看護導入時期についてや調剤薬局における薬剤師の役割についての意見がありました。また、終末期のがん患者を在宅でみていくためには、1つの施設や訪問看護ステーションでは対応が困難となります。それは医師も同じで、他の市町村、モデル地区では開業医の先生が2、3人グループを組み24時間体制をつくっています。このような協力体制があることで在宅医療がすすむのではないかと意見も出ました。



H.28
3/20sun.

認知症予防出前講座を開催しました

小松市はこれからの長寿化社会における予防先進都市の実現を目指しています。小松市民病院では認知症予防対策に取り組んでいます。

平成28年3月20日(日)に粟津診療所内2階にて初めての認知症予防出前講座を開催しました。内容は病気について、MRI等の検査について、予防のための食事や運動、口腔ケアについてでした。認知症を発症していないか確認するための簡易な検査も行いました。



当日は天候にも恵まれ、定員30名のところ23名の方にご参加いただき、最後の口コモ体操では会場がめいっぱいとなり、大盛況でした。

今回は、粟津診療所に通院されている方やご家族の方を対象に行いましたが、講座終了後のアンケートにも「わかりやすくてよかった。」「もっと多くの場所で開催してほしい。」などといった温かい感想をいただきました。

今回の講座が『小松市民病院 認知症予防キャラバン隊』にとって、初めての出勤でしたが、それぞれが感じた課題を踏まえ、よりよい講座にしたいと考えています。



小松市民病院予防プロジェクト
認知症予防キャラバン隊のメンバー

小松市民病院 出前健康講座のご案内

楽しく学ぶ 認知症予防講座 のご案内

小松市民病院では、認知症予防の取り組みの一環として、認知症予防キャラバン隊の巡回講座を開催いたします。

- 開催日時 平成28年3月20日(日) 午後2時より
- 対象者 粟津診療所に通院されている方またはご家族の方
- 開催場所 小松市民病院 粟津診療所内2階
- 開催内容

項目	内容
認知症予防の現状	認知症の現状、予防、治療
認知症予防の重要性	認知症予防の重要性、予防、治療
MRIでわかる認知症の診断	認知症の診断、予防、治療
認知症予防の食事	認知症予防の食事、予防、治療
認知症予防の運動	認知症予防の運動、予防、治療
認知症予防の口腔ケア	認知症予防の口腔ケア、予防、治療
認知症予防の簡易検査	認知症予防の簡易検査、予防、治療
- 定員 30名(申込順)
- その他 認知症予防の取り組み、認知症予防の取り組み

お問い合わせ先：小松市民病院 予防プロジェクト 認知症予防キャラバン隊
TEL: 0761-44-2546

H.28
6/9 Thu.

南加賀地区地域医療連携講演会



平成28年度南加賀地区地域医療連携講演会を6月9日(木)に開催しました。

「認知症の親を介護して」をテーマに、エッセイスト岸本葉子先生に講演をしていただきました。南加賀地区医療関係者148名の参加を頂きました。

内容は岸本先生ご自身が行った、お父さまの療養の世話とご両親を介護した経験からのものでした。その中で家族としてのとまどいからはじまり、受け入れに至るまでの変化について話されました。

いろいろな本を読み、知識を得る事で、認知症のお父さまの行動の理解につながり、介護する上でのストレスも軽減され

たそうです。もっと早い時期から、知識と理解があれば、もっとよい介護を提供できたのではないかと話されました。

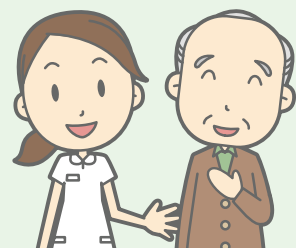
お父さまの内面を理解しようと努めるうちに、認知症のケアはがん患者のこころのケアと共通点が多いと感じたそうです。がん患者のこころのケアでは、役割を担うことが大切だと言われています。役割を担うことで自己効力感[※]の回復が期待できるとされており、お父さまに家事の一部の洗濯物たたみをお願いしたことによる、自己効力感回復のエピソードを話されました。最後にお父さまの存在により家族が結束し、介護は大変だったけれども良かったと「疲労と癒し」を感じられたと話されました。



そして、今後の介護の展望について、独居老人、単身の世帯におけるサービスの問題点についても話されました。

会場より「認知症介護を行う側として、どのような気持ちで接すれば良いのかを教わりました」との感想がありました。

※自己効力感
自分ならできるとい
自分に対する信頼感や
有能感。

H.28
5/13,20

平成28年度 第1回医療安全対策研修会

テーマ「MRI入室時の安全管理と輸血の管理について」

5月13日と20日の2回にわたり医師、看護師、医療技術職、事務部門の282名の参加のもと、平成28年度 第1回医療安全対策研修会がありました。

放射線技師からは「MRI入室時の安全管理について」MRI検査のしくみ、検査時間、検査をすることで何がわかるか、CT、レントゲンとの違いでMRI時に注意する点についての説明がありました。



実際に検査時の音を聞き、持ち込み禁止器具が持ち込まれた場合の映像をみる事ができました。酸素ボンベや、点滴台が磁力によってMRI装置に吸い込まれ破損する映像は衝撃的であり検査室入室時に多職種が協力し丁寧に確認を行うことを共有できました。

「輸血管理について」は検査技師より、輸血用血液製剤の種類、取り扱い注意点、保管方法で輸血効果が低下することなどについて説明がありました。

参加者からは大変わかりやすく、「MRIの吸着が命にかかわる事故につながると認識できた」「輸血の流れを再認識できた」の感想がありました。



成年後見 障害年金 無料相談会

場所：小松市民病院 小松市向本折町ホ60

受付：1階 相談ブース横

会場：1階 相談ブース

日時：平成28年7月29日(金)

午前10時～午後3時

電話：0761-22-7111

障害年金
就労支援

成年後見
介護保険



- 脳卒中、重い心臓病、進行した糖尿病、うつ病等を患い、治療費や生活費、勤務のことが心配な方
- 親の介護や親が一人暮らしで頼れる方がいない方
- 認知症・知的障害・精神障害などで成年後見制度を知りたい方

《お気軽にご相談ください》

年金・社会保障の専門家
社会保険労務士がご相談に応じます。

一般社団法人 **社労士成年後見センター石川**

後援：小松市民病院 石川県社会保険労務士会

編・集・後・記

梅雨入りとなりましたが、関東では「水不足の恐れ」といわれています。利根川上流のダムの貯水率が同時期としては過去最低との報告がでています。冬が暖冬であり雪が少なかったこと、春の時期に雨が少なかったことが原因といわれています。限りある資源であり、節水に心がけたいですね。(澤田)

 国民健康保険 小松市民病院

〒923-8560 石川県小松市向本折町ホ60
TEL(0761)22-7111(代) FAX(0761)21-7155
URL <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>
E-mail cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp